

ぬ御事なり、妾不省にはべれども年月哲理の學を究め畧道の事を辨ふものから偶像を神として禮拜するのみならず供物をさへぐる事は實に道理に適はぬところ存ずれ抑も神は唯一にして宇宙萬物の主宰なり眼に見ると耳に聞くとは目前協ひがたしと雖も我々人間の造物主なり偶像は是人々の作りしものなりよしやこをもて祖先の形となすとも崇めて神とはなし難し、ましてや供物を捧ぐるとは非理なるものと憚るところなく申しければ國王は今まで聖女の品行言語を知らず此に初めて其賢き敏きに驚きつゝ聖女に對して申されけるは汝の説は道理ありてさることながら此國の神といへるは皆我等が祖先にて眞の神となすべし、子孫たるもの孝を以て供物を捧ぐるに何ぞ道に適はずとせむとの言葉に聖女は更に膝をすゝめ祖先を神としたまふとも神としいへば完全無缺ならねばならずしかるに此神としたまふ人々の行迹は如何にてありし、戰爭に勝ちたる人國に盡せし政治の人英雄として豪傑としもいふべ

き人なるからに其一身の行は實に耻づべきものゝみなり過失數多重ねたる皆是我々と同じく人間にて英雄なり豪傑なりとはいふべきも神ははつや〜云ふこと難しと應答辨舌流るが如く國王殆ど語なく、我は學者にあらざれば汝と議論すべくもあらず、今國中の學者を招き汝と議論さすべければ其時勝たずとも悔るなかれとの言に聖女は却て喜びつゝ學者にして若し眞の學者ならば我と同じき説ならむと退出してぞ待ちたりける。

國王は人を國中に遣して國に名ある學者五十人をば招き集へ事の始終を語られしに皆是傲慢の人々なれば妙齡の女子の言葉何て挫くに骨を折るべき我等一人にてこそ事足りなむなど口々に罵りけり、聖女は退出して家に歸り學者追々集りぬと聞えければ神に熱信なる祈を爲し、我身妙齡の分として斯る學者等と議論すること必ず勝つとはいふべからず、神の尊き力に頼りなば何事にも自由なるべければ深く冥助を仰ぐなり

と願ひさて當日となれば國王は正殿に出坐され有司百官綺羅星の如くに控えたり此方には五十人の學者等嚴しき扮装して我まづ彼女子を説き伏せむとぞ意氣込たりやがて聖女カタリナは案内者に導かれいと謙遜に王の前に拜伏し今日は御命により参りたる由申しける人々其姿を視れば芳期正に十七歳容顔は月の如く美しく清らかに態容は花の如く麗はしく艶ありてしかも威嚴なる風俗いと尊くぞ見へにける國王は學者に對ひて議論を促がしければ學者は進み出て申すや抑も國の神といふは皆是非常の功蹟ある人々にて其事は斯様なり此事は斯の如しと其勳業を證しつゝ此國にとりて最も力あるものなれば學者も亦皆崇め奉れりざるを此神に對して苟にも失禮の所爲あるものは悪人ならずば悪人なりといとも容易に論じけるを聖女は靜に口を開き國の神といへる人々のありし經歷を詳しく説き何人は何處に何の行を爲し何の事を爲したりと一々見るが如くに語りさていふや斯の如く此人々の一

生は多くは人を殺し邪淫をなし或は殘酷の行爲あり國にとりての功蹟は人にとりての罪業を償ふべくもあらずして神といふべきものならずそを以て神と唱へしは眞の道を得知らざる詭譎人の言ひしによれり我等が拜する眞正の神は始なく終なく全智全能全美なる愛の神なり人な苦めず害を興へず萬物の主宰として人間に恩澤を蒙らすさらばこそ日月星辰の運行春夏秋冬の寒暖代謝禽獸草木の生滅出入百事定まれる法則ありて年々歳々變ずるとなく亂れず誤らず正しきは唯一無二の神の主宰あればなり若し二つより多くの神ありとなさば一國に二の君主あるが如く國は少しも治らず亂れて亡びに至ると同じく天地は定れる運行為爲しがたからむ神を二ありといへるものは國に二君を奉ずるもの神に對して罰あらむ君に對しては忠ならじと其聲玉の如く殿中さながら水を打たる如く靜なり五十人の學者等抗ふもの一人もなく其眞理に屈伏し且聖女の詞は鋭き矢の如く深く心を突きければ皆聖女の非常の

賢女たるを感じ、一同聖女に對ひて卿の説は眞の道理に適ひて我等も迷
を露したれば今より一體の神を信じ眞正の道に入るべしと述べたりけ
る。始終を見たる國王は茲に全く眞理の替者となり之を聞きて大に怒
り憎き學者奴の舉動かな妙齡の女子に打負たるのみならず之に従ひて
我に背くとは無禮也國法に違へるもの速に罰せむとて無慘にも五十人
の人々を烙火の刑に處して殺させ、さて後に聖女に對ひて汝は博學にて
得がたき賢女なるに、王族なれば苦めむことを欲せずされば汝今日より
キリストの教を捨て我皇后となるべしと言ひければ、聖女は言を改めて
これはまた存じよらざる事なり皇后の事は既に皇后在ませば決して我
身を爲すべからず教の道は死すとも捨てがたき眞理なりと申しければ
國王は怒りを重ね剛情なる女苦めずば従はじとて兵士に命じ鞭をもて
烈しく答たせ刺へ穴を掘りて其内に幽め飲食をば絶ちつかくせば如何
に剛情なりとも我心に従はん」と私に様子をまち居たり。

皇后はカタリナか斯る憂苦に逢ひ居るとは露知らずありしが或夜の夢
に一人の少女日の如く輝ける姿にて出て來り花の如く美しき手にて一
の美なる冠を携へやがて皇后の頭に載すと見たりしが、何事の兆たるを
知らず近侍の臣に語られけるを、そはカタリナにもやさふらはんかし昨
日斯様の事ありて基督教を信するものなりとて苦しめられ、今は穴の内
に幽められ候と答へければ皇后驚き、急ぎ其所に至り、聖女を穴の中
より出し夢の事を語れば、そは神の深き恵なりとて教の事を詳しく説き
偽の國の神を捨て、眞の神を拜すべしと語りしかば、皇后は其近侍の人
々と共に深く感悟し程なく洗禮を受けたりけり。折から國王は止みがた
き政治の事にて他國に行かれ、聖女は圖らず皇后によりて苦難を免かれ
しが、國王はやがて歸り來りて再び聖女を攻つ説きつ種々手を盡したる
に更に従はず、斷然言語を更めず、是に於て國王は新に攻道具を作りたり
そは車の輪に見るも恐ろしき幾本の白刃を植ゑたるを、廻轉させて聖女

の身近くよせ切り殺さむことを命ぜり。
 されどかゝる残酷の殺し方は尊き神の教徒を切り難かりけむ車は聖女
 に觸るとひとしく微塵に碎けて飛び散たり事の不思議に皇后をはじめ
 臣下の者も聖女の説ける真正の神を信ずる心いと深く言葉ひとしく我
 々も信者なりとぞ言ひければ國王は暴れに暴れたる心の駒の狂ひつゝ
 皆之を殺し盡し又も聖女に差迫り今は皇后を失ひて憚る所なければ汝
 を皇后に立つべしといひけるを聖女は辭みて諫めたれば國王今は聖女
 を殺して多くの信者を恐れしめむと思案をなし兵士に命じて町に曳き
 出させけるを聖女は却て打喜び國の爲に神の爲に我肉身を捧げたり眞
 正の教是よりして此國に廣まり迷へる人々の心を晴らし神の光を見せ
 しめたまへと祈念を凝らし神を讃めたる歌を唱へて盛に近き花の顔容
 白刃の露と消えにける。
 信者輩打集ひて死骸を取り彼の天主が十誠を授けたまひしシナイ山に

葬りける今に至るまで毎年其祝日には多くの信者雲の如く参詣し聖骨
 に對し恭敬の意を表し且聖女は幼年より哲學を修め其奥義を究め博學
 比なきものなりければ後世の人皆之を哲學の主護なりと崇めたりまこ
 とに妙齡の一佳人にして教の道に貞烈なる聖女の如きは稀有といふべ
 し。

聖アンドレア 使徒

十一月三十日

聖人アンドレアはエデヤ國ヘツアイダといへる小さな町に生れ兄のペ
 トロと共に漁夫なりしが御主に逢ひて第一番に招かれて弟子となりた
 り是より先き洗者ヨハナはエデヤ國を巡りて救世主の世に降らむとを
 説きし時其弟子となり後ヨハナの紹介によりて御主の下に従ひけるな
 り御主に従ひしよりは其救世主なるとを能く心に信じ兄弟なるペトロ
 に語りて同じく弟子となり御主と共に國中を巡れり初の程は前の如く

漁をもて業となし、が一年半を経て其業を止め御主に従ひけり、其時の年齢は詳ならねど御主よりは年長け卅五六歳なりしならむ御主世に在せる間の所業は聖書に詳細ければ此に記さず御主昇天の後には暫時ユデア國に留り、後に西の方歐羅巴なるキリシヤ國に行きて布教に力を盡したり、此聖人は一の地に長く留住ことなく、信者多く出て來るときは其中より才學高く信仰殊に厚きものを選びて靈父となし、信者ますます多ければ其上に司教を立て其處を守らせ、自己は他の地に行きて亦信者を多く作り、斯の如くして數多の教會を建て聖徳いよく高く信者益盛になれり、後にテロストリ國に至りて教を擴めけるが當時テロストリは野蠻未開の地にて無智の民のみ多かりしが、聖人の熱心なる説教に依りて多くの信者を作り次第に開明に赴きぬ、殊に聖人は容貌いと威高くまかも溫和にして、何人も其説教を聞かざるに先づ其容貌風采を見て畏敬ひ感服し、此人の言はむことは必ず守るべしと思ひけり、是實に聖人のい徳

と高く熱心なるが故なり、されば布教思の外に効ありて至る處に多くの信者を得たり、聖人は常に聖祭を厚く信じ、毎日必ず聖祭を捧げて神に祈り、其折は全く我身を忘れながら天國に在る如き態なり、此頃風俗未開なれば人々不潔白の行ひを爲し、それをさほど惡しとも思はざるもの多かりしを、聖人は潔白なると不思議なるほどにて、それがために人々も自然に惡しきとを感じ漸く正しき品行に改まりける、かくて人々は聖人の品行少しも缺くるところなきを見て、こは人にあらず神ならむと言ひ合ひたり、聖人は柔和温厚善人に對ひても惡人に對ひても常に温顔もて之を接ひしが、キリシヤに在りし時コリント町といへるに一人の信者歳は七十以上の老翁あり、家富みて財貨多く持ち、初の程は教の則をば能く守りしも、身に不自由なきより次第に金錢に心を迷はし、品行惡しく外教人と異ならぬ様なりしかば、他の信者之を見て斯る人を信者の中に置きては教會

に耻辱を受くるとあるべし。放逐に如すと申しけるを聖人は之を和め自ら老人の家に於て其非事を攻め、老年なれば殊更靈魂の事を思ひて改心すべき由を懇に説き教へて其非を改めさせ、之が爲に五日の間禁食して神に此人の改心を祈りたり。五日ほど経て彼の老人は聖人の許に來り是迄の深き罪を悔いて公けに我身の過誤を白狀し、信者一同に謝ひ聖人に乞ふて嚴しき罪の償を致さむと言ひ加之所持の金錢をば悉く貧しきものに施與し善き行にぞ返りける。或時聖人はいと繁華なる都市にて説教し其が爲に數千人の信者を得しとありしかるに其町の奉行は頑固野蠻の人なるゆゑ、此教をいと悪く思ひなし、聖人を召して布教を禁じ申しけるは此教は邪教なり、開祖たるものは十字架上に盜人と共に磔せられし罪人なりと、謗るを聖人は靜に答へ、聖主リキストが十字架に死したまひしは自らの罪にあらず、深く人間を憐み其罪より助けむ爲に死せしなり、されば十字架に懸られたまひしところ、此教の真正にして神の御旨に

適うたる尊き教なるを知るべけれとて人間の起原罪の成立等を詳しく説き、御主が人間の爲に罪を償はれしとを諭し語られければ、側に在りし人々皆感服してぞ聞きける。されども奉行は感ずるとなく、抑も國の神は一國の鎮なり、是こそ我等が先祖として崇め拜すべきものなれと言ふ。聖人は國の神はよしや尊まざるべからざるものとすとも、皆是我々と同じき人間なり、之に事ふるに神に捧ぐるの禮をもてすべき所由なし、我今信じ拜する神を除きては世に神と名くべきものなしと申されしかば、奉行今は言語議論に勝つべきやうなく、唯怒を重ねて聖人を執らひ獄屋に下し、數度の迫害を加ひ、如何に剛情なりともやがては教を捨てむと思ひつ其まゝにして囚め置きけり。

町の人々此事を聞きていと驚き、元來未信人と雖も、聖人の徳高きに伏して之を敬ひ愛せるが故にかゝる聖人を執へ殺さば神の冥罰あらんとて、信者はいふに及ばず多くの人々打集ひて、終に獄舎を破り聖人を救ひ出

さんと圖りけるを聖人は之を聞き、そは必得違なりとて痛く之を止め且言ひけるは人は苦を受くるを悪しく思ふべからず、苦を受くるは人の常なり、殊更眞理の爲に苦痛を受け或は凌辱を蒙りて之を堪へ忍ぶは神の照覽を得て後必ず大なる幸福あるべしとて共まゝ獄舎に留まりけり、次の日奉行は再び聖人を呼び出し厳しき苛責を加ひし後、此町の人々が國の神を捨てたるは皆是汝の罪なりされば汝は今國の神に物を捧げて拜禮し是までの罪を謝せよと申しけるに、聖人固く之を否み、國神は我等と同じく人類なり人に對して神に捧ぐる禮を行ふは道に於て無きとなればそを爲し難しと言ひ斷り、汝奉行は兵士に命じて聖人を打毆き身より血流れ出て惨しき態なれど聖人少しも憂苦に見えず却て喜び汝等我を苦めむとて斯くは凌辱を與ふれど、我は後の報賞いよく多からむことを喜ぶなり、一度打たるゝとは金剛石の一片を贈らるゝに異なちずとて自若として居たりしかば奉行は終に×字形の磔柱を作りて聖人を縛

りつけたり、聖人は御主と同じく十字架に懸けらるゝは眞に分外の榮なりと申しける。
町の人々此事を聞きて急ぎ法場に集り、此體を看て大に悲みさては騒動に及ばんとせるを柱に懸りたる聖人は之を鎮め必ず過失を爲すべからず、我をば此まゝに置くべしと諭したり、町奉行は聖人死するまで柱にかけ置かむと思ひしが終に二日の間捨て置きぬ、聖人は柱にありて命終るまで説教をなしたり、其大意は人々よ能く我言語を聴くべし、凡そ此キリストの教に非ざれば決して靈魂を救はるゝとなく、また後來の罰を免さるゝとなし、此教の外に天地に幸福あるとなし、其證は我今かく苦痛を受くるも更に憂しとせざるを見て知らむ、此教に背かば地獄の罰必ず來るべし、人々肉欲をもて靈魂の大切を忘るゝ勿れと説きたりけり、之を聽けるものいよく、聖人の徳を感じ心を改め、且は之を救はむと思ひ、多くのもの提携れて奉行所に行き、聖人を十字架より助け下さんとを願ひし

に奉行の如何に思ひけむやがて兵士を引具し法場に至りければ聖人は早くも人々の願事を察し聲をかけて申されけるは我命數は今既に終に近けり十字架より下すなかれと其言の後程なく頭を垂れて息絶えたり人々多く集りて近く寄るほどに不思議なる光輝々として聖人を圍みければ奉行はあなやとばかり目眩み卒倒し竟に狂人となり種々の事を口走り死しけり其弟は此様を見て心を改め教を求め兄の後を繼ぎて奉行たるべかりしをば固く辭みて相續せざりしとなむ。

此聖人上天の時六十二歳なり到る處に長く留らず唯神の道の爲に心を盡し力を勞し殆ど三十年の間教を諸國に布き世界の文明を開かしめたる効績はいと炳乎なりといふべし斯る聖人こそ我身を忘れ我事を忘れ神の道に盡せる真正の教師ともいひつべけれ讀む人心して鑑むべきなり。

聖フランシスコザエリヨ

十二月三日

天に輝く星辰の數へ難き程吾天主教會には數多の聖人願れて何れ優り劣りはあらざるも日本の人の最も恭敬べきはフランシスコ聖人なるぞかし聖人は初めて眞教をこの國に傳へたる日本教會の教祖なれば或は其教會の保守となし或我名の聖人として其代願を爲すは理なり

聖人はエスパニヤ國貴族の家に生れ給ひ父はヨハ子母はマリアといひて聖人の兄弟數人ありて其末子なり其生れたる土地をザエリヨといひければフランシスコザエリヨと云ひて他の同名の聖人と區別をなせり

聖人幼より學問を好み熱心に勉勵せられしかば早くも普通の學科を卒業し佛蘭西なる巴里の大學校に入學して哲學を修め數年ならずして其學業を卒へ哲學博士の尊稱を得て或有名なる學校の教官に任せられ或時多くの學者の爲めに哲學の講説をなしけるが人々皆な其博識に驚きて稱讚せり其學士の中に聖イグナシヨといへる耶穌會創立者なりしが其

時神の黙示を蒙り耶蘇會の修士となさんと聖人の其所を出づるを待ち
 交を結び又聖人に向ひ言はれけるは人たとい全世界を得るとも若し其
 靈魂を失はば何の益あらんやとの聖言を述べられしが聖人は甚だ學者
 の名譽を得んことを望まれ少しく靈魂の事を忽せにし給へば其言葉を
 心中に留めざりし然れども或日又同じく其言葉を聞き始めて深く考へ
 たまひ其眞實なる事を悟られ遂に聖イグナシヨの意見に従がひ其心を
 改めて修道を爲さんと決心せられたり
 夫れより聖イグナシヨに従ひ神學を修め靈父となりて人々の靈魂を救
 はんと欲し聖イグナシヨと共にパリスを去りローマに行き茲にて靈父
 の位を受くるの覺悟として謙遜の心を以て病院に入り病人を看護し又
 は貧者共を救ひ又は小兒等教の道理を説き抔したまへり斯の如く聖人
 は聖イグナシヨの許にて程なく善道に進まれ或は荒行を以て身を苦め
 或は肉食を止めて僅かに粗食を用ゐ又數々數日の間少も飲食せられず

又眠る間は二三時間地上に眠り其外は長く祈禱を爲したまひたり如此
 覺悟を爲して後靈父となり彌撒を行ふに及び度々其愛熱の厚きが爲め
 他の事を打ち忘れて知らず知らず其身を上にあげ給ひたりといふ聖人
 常に荒行を爲し給ひ天主より多くの慰めを受けしが又或時其夢に由り
 て後日に苦勞艱難を受け給ふことを知り給ひ天主に向ひ天主我れに艱
 難を加ひ給へと祈れたり
 又聖イグナシヨの意見に従ひ教皇ポロ第三世に謁見し平伏て何處に
 遣さるゝも又如何なる苦業を命ぜらるゝも決して違背まじげれば不肖
 の身なれども陛下の御意に適はば用ゐ給へと述べられたり其の頃エル
 サレムの聖地は土耳古領となり彼等は回々教人なれば古聖地を汚し信
 者を苦しめし故教皇は聖人を其所に遣し信者を救け回々教人を改心せ
 しめんとなし給しが聖人船に乗り彼地に渡らんとし給へども折柄エス
 パニヤと戦争起り彼地に渡るべき便りなく數月止りしも更に渡る便り

なし其間人々を教へ又病者を憐み貧者を救け愛熱焼る如くなりしが其時ポルトガル王ヨハネ三世は教皇に印度へ教師を遣さん事を請れたり印度は大國にして是れより先きポルトガル人商業の爲め印度に渡りけるが國王此者等より印度の未だ野蠻にして眞誠の教を知らざる事を聞きて教皇に教師派遣事を願したり教皇は其願を容れ聖人を呼び歸へし印度へ遣す事を定め給へり故に聖人は大に喜び教皇の命令に従ひイタリヤを去りエスバニヤを通り己が家へも立寄らず直にポルトガル國に至り船に乗り込み出立せられしが聖人此時年三十五歳なりし。今は航海の術も開けて西洋より印度まで來るには僅か二十日もかゝるべけれども當時はスヘスの掘割もなくアフリカ州の南端を回り帆舞船にて航海凡一年有餘にして漸く印度のゴアといへる地に着し給へり。其航海中の事を述べれば聖人は一年の永き間船中にありて邪神を信ずる船長を始めこれに乗込る人々に教への道理を説き日々人々を集めて

祈禱にあづからしめ病者ある時は懇に看病せしが或時同船せし人の中に熱病を患ふる者ありて遂に數十人に傳染せしかば聖人一人にてこれが看病を爲し教の談を以て慰め後悔を勧められたり終に聖人も其病に感染し尙働さければ其れが爲め大に疲勞て死する斗りなりし聖人少しも屈せずして働き給ひたとへ我は死すとも人の靈魂の大切なればこれを助くるが爲め働くべしといはれたり。聖人ゴアに着し給て後は此地に在るポルトガル人と印度人とに惡を戒しめ善を勧め殊更當時其所はポルトガル國の領地なれば彼國の者土人を苛酷く奴隸の如く取扱ければこれを嚴しく誡めたりされどポルトガル人は聖人に對し外國人のいらぬ世話なりと謂ぬ斗りに聞く者なければ聖人はポルトガル國王に手簡を送り其事を詳く述べければ國王は聖人に其所の人を支配するの權を與へたり是れより漸次ポルトガル人も良善となり又土人も外國人とし云へば皆殘酷の者とのみ思しが聖人の

行為を見て深く感じたり。
 又聖人は不思議にも使徒の如く唇はずして能く印度の方語を覚え説教するの便りを得たればゴアを去り印度の海岸を歩み所々の漁夫杯を尋ねて救助の道を説き飢渴炎暑を顧みず甘んじて之を受け又甘味柔和の心を以て未信の者を親切に取扱ひ謙遜と堪忍を以て此等の教を授け禁食を守り祈禱を爲し睡眠の時間を減し身を苦め勤めし故其教の眞なるを悟り洗禮を望む者多く又聖人土人の無學なる事を憐み學校を建て兒女を教へ又神學校を建て信者の熱信なる子供を入學せしめたり土人はブラマ教の爲めに皆野蠻にして彼のブラマ師なる者より輕蔑せられし者も聖人よく深く愛せられたれば僅々數月ならずして數千人信者となりたり。
 かく教會漸次盛大に越えければ聖イシナシヨに手簡を送り收稼は多く工人は少しと云へる聖句を引て教師を印度に送ることを願ひ又神に向

ては印度人は未だ野蠻にして道理を以て教ふること難ければ奇蹟を以て其心を動さんと其能力を願ひたれば神其願を聽き給ひ死人を蘇らせ病者を癒し風雨に命じてこれを静められしかば無智の土人も聖教の尊き事を悟り益々信者は殖へたり聖人凡そ八年の間印度に教を傳へ後マラカといへるところに到り給へり。
 マラカにて日本人に遇ひ給へり此人其時三十五才にして門地も賤しからず且資産も富る者なりしが若年より行跡放肆して一朝改心を起し後悔し心中之が爲めに易からず或時日本にありし日ポルトガル人より聖人の談を聞き安神の法を授からんとマラカに來りし者なり聖人此者より日本國の實況を聞き天主の教を其國へも傳へ人々を救はんと思立れ人々の止るをも聽かず神の聖旨に托せこの日本人と共に支那海賊の船に乗り幾多の艱難を神の聖助に依て凌ぎ終に薩州鹿兒島に着きたり維時降生后一千五百四十九年八月十五日即ち聖母御上天の祝日なりき。

聖人上陸の後、ボロ（聖人ト共ニ歸ナリ）の家を宿とし其家族と親類の者に
 教を説き洗禮を授けたり聖人左程に日本の語を習ふの暇あらざりしも
 天主の格別なる恵を蒙りて可なり日本に日本の語に通ぜられ薩摩の國
 主に謁見し懇切なる待遇を受け其時詳しく聖教の道を説きければ國主
 は大に感ぜ此國へ傳教するの免狀を與へられ又人民に聖教を信奉する
 事を許されたり聖人公衆に向ひて天主の教を説きしかば其教の眞なる
 を悟り洗禮を授けし者數ふる能はざる程なりされど佛僧は大にこれ
 を妬み聖人を讒して言ひけるは彼の西洋より來りたる基督徒の教師は
 邪教を器械に金を殖けん爲め來りし者なりなど云けれども人々は却て
 彼等の不品行なるを惡み聖人の良善行爲に感ぜ全く人の靈魂を救はん
 爲め來りし者と思ひ益々聖人を尊敬たり。
 聖人九州の諸國を廻り處々に教を説き又謙遜堪忍柔和等の美德を顯し
 又度々其祈を以て病人を癒し或時は海邊にて漁者の不漁なるを見て漁

者を慰め祈をなして網打たしめたるに網に盜るゝ計り得ものありけれ
 ば彼大に驚けり又或豪家の女子死せしかば其父深くこれを惜み其信ず
 る神佛に祈請すれども其功なく失望して心も亂ん計りなりしが或信者
 の勧めに依り聖人に見へ拜伏して死せし女子を蘇生し給らば自の生命
 を捧げ天主の教を奉ずべしと涙を流して懇ろに求めければ聖人これを
 憐み熱心に天主と基督の光榮を此民に示し給へど祈り彼者に女子は蘇
 りたりと慰めけれども彼者は其慰を解せず己を嘲弄ると思ひ家に歸ら
 んと行く事未だ幾歩ならざるに其家の僕來て其蘇りし事を知らせけれ
 ども信じ難く思ひ家に歸り其女の出迎へしを見て我を忌れ之を抱き威
 涙を流し即時其女を伴ひて聖人の所に來り父と共に拜謝し聖人より一
 家親族洗禮を授けたりかゝる靈蹟ありければ佛僧は愈々反對し聖人を
 呼んで魔法者といひ又無賴者を備ひ聖人の説教の邪魔を爲し或は讒言
 し惡言せしめしが其者共は天主の罰によりて舌は腐れ蟲を生じたり其

中に一人聖人の説教せるとき其顔にツバかけしが聖人は黙してこれを拭ひ一言の詰責もせざりしかば彼大に驚き深く己が非を覺り今迄惡人とのみ思しは大なる誤りにてかく忍耐強き人は惡人ならずと後悔して只管其罪を謝し洗禮を願ひたり

かく神異の花開きて數多の實を結びしが佛僧ども大に妬みて騒動を企てければ國主はこれを懼れて聖人の説教する事を止めければ聖人一年止りて鹿兒島を去り平戸に往かんと六里程往きて或城主の夫人嗣子家臣十七人に洗禮を授け夫れより幾多の艱難を経て平戸に達せり

平戸の城主は己に葡萄牙人より聖人の功德を傳聞きたれば懇ろに待遇し其領内へ天主教を宣布の許可を與へ又人民に聖教に入る事を勧めければ二十日に滿たずして洗禮を領けたるもの鹿兒島にて一年の間に受けたる人の數より多ければ何處にても反對する者は佛僧にて其中には皆不學者のみならずして種々なる理屈を以て愚民を瞞着し己れ等の口

腹を養はんと圖る者あれば聖人は異教の本城とも云ふべき京都に攻入り其根を断ちて其枝葉を枯さんと京都へ上るの望を起されたり京都は日本の帝都にして大諸侯及び英俊の集る所なれば聖人は此處に教を傳へなば昔羅馬より諸州に弘まりし如くならんと千五百五十年十月下旬平戸を發し博多湊より船に乗じ山口に至れり山口は長門の首府にして繁昌なる所なり聖人國主に謁して聖教の要旨を説きしが國主は其言を喜べども未だ信者となるに至らず城下に説教するの允可を與へられたりされども此地は驕奢て淫逸なる者のみにて一人も歸服せず却て譏り笑ふ者多し一月餘り留りしが只教の説をなすより外は少しの慰もなく遂に山口を去りたり

山口より京都迄は百里餘りにして山口を出てしは九月下旬にして此地は殊に寒く又路費に乏しく寒を凌ぎ非常なる艱難を経て途中山川を涉り寒さを凌ぐべき衣服もなく食物とても蓄へなく一日日夕に或宿に入

りたれども全身雨に濡ひ肢體凍冷え食物を欠き大に疲勞ても其貧乏態
 を見て旅舎にてはこれを斷り已を得ず村内に野宿して僅かに敵屋を見
 出し風雨を凌ぎたる事もあり又或時は路に迷ひて深き林中に路を失ひ
 しが幸に京都に往く騎馬の人に出遇ひ其人に對し其行李を擔ふて隨行
 すべしとて依頼み漸く道知者を得て聖人は其行李を荷ひ彼は馬にて聖
 人は徒歩なる故叢棘中を通り荆棘石塊等の爲めに足を傷け兩足共に
 血に染み寒氣に冒され腫れたる足を幾箇所も又突き破りけれども聖人
 此艱苦に屈せず途中聖歌を咏じつゝ歩めり聖人は身はエスバニヤの貴
 族にありながら人々を救けんとてかゝる艱苦を受け給ふこれを見ても
 基督教の眞誠にして救靈の大道たる事明なり
 聖人山口を出て後一月にして堺に至りしに大寒熱に罹り病床に就き
 しが命を天に任せしが幸に平愈せり
 聖人の後の手簡を見る時は日本人は信切なる者にて能外國人を待遇す

れども何の故か其小兒は外國人に對して禮を欠く事他の國にかゝる例
 なしといはれたりしがこれ堺に在りける時聖人の敵衣を着し狀貌の醜
 惡きが爲め説教を聽かざるのみならずこれを嘲弄り瓦石等を擲ちたる
 が爲めなりしならん

斯くて一千五百五十一年の二月京都に到着せしが其頃將軍の叛逆に因
 り府下は擾亂て聖人の企望を行ふこと能はず尙將軍及皇帝に謁見せん
 ことを欲すと云へども其身の貧窶さが爲め撥斥せられ宮闕に至りしも
 宮人等に斥けられ又其謁見を扱ふ爲めに夥多の黄金を求められけれど
 も聖人其金を携帶されば已むことを得ず京に留ること十五日にして京
 を去り平戸に歸り夫れより山口に往んとせしが聖人は基督の聖旨に従
 ひ貧者の風態を爲し居りければ葡萄牙人は聖人に向ひ日本人は心中よ
 り多く外貌を見て人を相る故に少しく外貌の美麗を示さざれば其心を
 服する事能はざるべしと云へり然れども聖人は有形物を藉て民心を得

んと爲られず其説に従はざりしが遂に少しく其説を容れ僅かに敝衣を脱ぎ新衣を着し山口に至りしが輒く國主に謁見する事を得たり國主は聖人の無慾にして只教法を傳へ救靈の事にのみ熱心せらるゝを感じ領内に布教する事の允許を與へ又會堂を建てるの地所を與へられければ二月の間に洗禮を受けし者五百人の多きに及び又聖人は日本人中殊に佛僧の言ひ顯したる精神の不朽天體の運動日月の蝕虹の各色罪業天恩天國地獄といふが如き各異の疑問に數語を以て答へ恰も各自に答へしが所く人々をして其に満足せしめたりされば尙人々は感じて其後には二千人の信者も殖へ皆熱信にして窘逐の當時は皆教の爲め致命せしとぞ又此處には支那人も居りければ此等をも集め時々説教して夥多の信者も殖へたり。

折しも印度國より書翰を受け已むを得ざる事ありて再び印度に歸らんと涙ながらに教師と信者に假の暇を告げ又益々信仰は堅固になすべし

やう教誡めたり信者はこれを開き聖人に離るゝ事を大に悲哀しかば爲めに聖人は腸を斷つと思を爲し千五百五十年九月中旬自ら彌撒の祭具を脊に負ひ豊後を指して旅立たれたり。

聖人豊後に至り國主に見へて聖教を説き此處にも多くの信者殖へたりしが國主は遂に信者とならず此年十二月二十日肥前よりポルトガルの船に乗じ印度をさして出帆せられたり聖人の日本に滞留せられしは凡そ二年四月斗りなりし。

聖人印度に歸り教會の實況は益々盛大なれば大に喜び給ひ聖人支那に傳教せんと又ポルトガルの船に乗じ廣東より六里程隔りて三洲島と云へる所に上陸せしが外國人は易く其内地に入ること能はざれば冬の寒さに家もなき海岸に居りしが船人ありて小山の上に蓬屋ありしかば其中に藁を敷き聖人を其家に入れたり聖人常に嚴齋を守り自己を苦めしが其時は身體疲れ天主は豫め其終を告げれば熱信に祈禱を爲し一

生の恩を謝し日本支那國に聖教の盛に行るゝ様聖主及聖母に願ひ安全として世を去り給へり時に御年四十六歳にして華顔生る時の如くポルトガル人堅木を以て棺を作り山下に葬り數月の後國に歸る時印度に携へ往かんと再掘り出せしか其屍は少しも變ることなく元の如くにて又最も薫しき香を發したればポルトガル人はこの奇蹟に驚き聖人の厚德を讚美げ其屍は鄭重に包みて船にてマラカに至りしに其頃疫病流行して日毎に病死する者多かりしが不思議にも聖人の聖屍來るや俄かに疫病止みて死する者なし夫れより印度のゴアに送り大聖堂内に祭司の正服をまとはれ黄金の寢臺の上に安置して今尙有りと聖人死してより今日三百餘年更に腐敗を受けざるは實に不思議の事にして天主は聖人の教の爲め大功を顯したるを賞してこの如き奇蹟を顯されたる者ならん眞に聖き事也

聖アンブロジヨ 博士

十二月七日

船船の洋中に有りては時に暴風怒濤の爲に漂さるゝ憂有り吾人を安樂の湊快樂の岸に送る伯多祿の船も時には異端異説の風虐王暴吏の怒濤の爲め艱難の中に在ることあれども一言の命令に無情の浪風をも静め給ふ眞の神にてまします基督の常に保佑あればかゝる時には聖人願て艱難の中よりこの船を救ひ出せし事は教會歴史に屢々看るところなり聖アンブロジヨも有名なる其中の一人なり其略傳を茲に記さん
第三世紀の頃羅馬に權威列ぶ者なき一人の華族ありて其頃羅馬の領地なる佛蘭西國を支配して其國に移住けるがこの家の祖先は使徒の時代より聖教を信じ皆熱信なる者なりければ窘途の盛に行れし時には多くの致命者もありけるとぞ
御降生後三百四十年の頃この家に一人の男子誕生ありてアンブロジヨと名けられしが襁褓の中にありける時不思議の事ありて其眠れる時何

處よりか多くの蜜蜂飛來り其口のほとりに集りしが暫時にして皆群れ
 立ちて天に上りければこれを見たる人々は皆奇異の思ひをなしけるが
 これぞ聖人の後日其徳を表すべき前徴なりける。
 聖人の父は幼き時死去ければ聖人は二人の兄弟と偕に母に従ひて羅馬
 に歸りしが母は婦徳充分なる人にて能く兒童の教育に注意し己れ模範
 となりて善徳を教へ宗教の旨を教へ神の恩恵の無限なる事等教へけれ
 ば皆幼き時より深く心に銘したり。
 當時羅馬は世界無二の繁盛を極め文學技術より百事進歩盛大なりしが
 惡風も盛にして道徳の事に意を注ぐ者少なりしが聖人は賢母の教育
 により獨り天賦の良性を毀けず堅く聖規を遵り又師をえらみて格物窮
 理の能道徳文章の業を修め殊に雄辯術法學を研究べ老成の修士も聖人の
 の行には感服する程にして十八歳の時代言人となり其名聲高し聖人の
 法廷に出て、辯護する時は爲めに傍聴人も多く出づる程なりき。

皇帝は聖人の有徳博學なる事を聞召し以太利亞北部の知事に任じけれ
 ばミラノといへる町に住みて博愛と正義を以て人民を支配し貴顯の者
 にへつらはず貧賤者をも輕侮らず百事懇なりしかば人民其徳に懷き皆
 父母を思ふ如くに服従せり。
 當時ミラノの司教死去て其相續者を立つる爲め司祭と衆くの士民は聖
 堂に集りて評議せしが未だ其人を得ざる時聖人其所に至りしに一人の
 孩童これを見て大聲に呼りアンブロジヨ司教來れりと云へり頃刻して
 士民齊く斯く呼はりければ其内の一人主の默示に感じこれ神の撰びし
 人なれば再び議すべからずと聖人これを聞き驚き奔て署中に歸り衆人
 の望を解き散さんとことさらに囚人を酷く拷問して其司教の徳なきを
 示しけれども衆人仍固く請ふて已まざれば其夜密に家を去り晨に至る
 迄走りて自ら思ふ様最早城を距る事數十里ならんと夜明てこれを見
 れば不思議や未だ先きの城中に在りしかが始めて上主の恩にて自らの

遠を通る事と事を容さるることを知りこれを辭する事の却て罪多き所爲なることを悟りしが未だ法皇の命下らざれば退て朋友の村舎に避け居たるがこの人も熱信なる信者なれば聖人の司教となるは教會の爲め又國家の爲め有益ならんことを信じ衆人に聖人の在り所を知らせ來り迎へしめしかば聖人も今は辭するに詞なくミラノの聖堂にて適當の覺悟をなし漸次品級の秘蹟を受け司祭となり教皇の辭令も下り遂に司教の位に昇りたり當時は司教を撰むは其土地にて智徳勝れたる人を衆人より撰むの風習なりしかばかく聖人も知事より人々に撰れて司教となりしなり。

當時羅馬帝國は信教は自由なりしが僅か三四十年前迄は寢逐行はれし後にて司教の職務をなすは餘程有力人にあらざれば能はざりしされば聖人司教となりて此教會を支配するに多くの心配ありし夫れをなにかいへば皇帝信者となりて有司百官多く信者となりたれども洗禮を受

けて未だ日も淺く深く教理も研究す隨て其所業とてもまゝ外教者の風習を脱せざればこれを理ることは餘程有徳者にあらざれば難かりしなり

聖人司教となりて行を以て衆人の模範となし又教を傳ふ者は使徒等の如く清貧を守らざれば能く人を化する事難しとて財物を散らして貧者に恵み其所有地の如き聖殿に寄附し専ら傳教の事に心を盡し謙て人々の言を容れ自ら罪人の如く身を責め禁食を爲し主日毎には自ら説教を爲し人を教へて倦むことなく賢人には事を習ひ賓客は懇に待遇し貧者はこれを濟ひ憂患者はこれを慰め争訟する者はこれを和解させ異教の人に好を通じてこれを導きたりされば何時も聖人の門前に市を爲し門を設くるも閉る時なく貧者を濟ふに切にして殿中の金銀の器具はこれを價に換へて人を救ひたり聖人は幼より欲は寡く心は清く貞徳を守り身を以て人を勧めければ従ふ者多く又彌撒の聖祭を爲す時は熱信其面

に顯れ多くの祈禱を自ら作りたり今日祭司の彌撒の前に踊る祈禱は聖人の作りし者なり主日祝日に爲す説教は聖人の樂とせられしとにて何時一日かゝりしが信者は其説教を聞く事を喜び如何なる用務をも擲ちて食事も忘るゝ程なりしされば其都度聽聞人は數千人ありても少しく騒しきことなく皆謹愼て黙聴一人の人なきが如く其説教の人を喜ばず事蜜の如く如何なる頑固なるものも感ぜざることなければ人聖人の説話を賞めて蜜口なる人と稱讚たり其常に説かれし事は信すべき事天地開闢の事救世主の事などなりし又當時學校教育不完全なりしかば聖人深く兒童の爲めに學校を建て貧者を救ふ爲め育兒院養老院を設け病院を建て、施藥し自己の利益は少しも顧はず只教會の爲め國家の爲め熱心に働かれたり實に聖人の如きは愛國正義の模範たるべきものなり

聖人學博く賢明けれども謙遜にして常に人の意見を聞用ひられ其著書

は多くして聖教の玄義を説き眞誠の教會を證據する物多く今大學校に用ゐらるゝ者多くは聖人の著書ならざるはなし故に聖人を博士といふ又童貞は國家の爲め大に利益を與ふる者なればとて一の大修女院を設け有徳多才の女を撰んで院長となし嚴正規則を設けたりこれ童貞は身命を神に捧げて愛神愛人が爲めに働く者なれば國家の爲め利益あればなり又當時羅馬人は正月國神を祭るとて町々を行列し酒を呑み猥褻なる歌を唱ひ終には泥酔して不潔の罪を犯す者多ければ聖人この惡風を止んとて殊更に信者に對し一月は眞神を祭り一年の幸福を祈る爲め禁食を爲し行を慎むべしと命じければ未信者も終には信者の行に對し耻づべき風習を改めたり又信者は當時致命者の祝日には其墓に集り種々なる食物を捧げ其所にて酒食なしければ聖人これを禁じて只其墓に祈禱する事は良き所爲なれども只其所に飲食するは却て致命者に對し不敬なればとて食物を捧げ其所に飲食することを禁ぜり又司祭に對し

司祭は世俗の事を捨て神に身を捧げたる者なれば世俗の快樂を棄て、熱信に傳教することを命じ又祭司の熱信と學問無き時は能く信者を感化すること能ざる物なりとて司祭の教育に注意せられたり。茲に聖人の爲め大に憂慮する事出て來れりそはアリウスと云へる異教者願れ基督は聖父と相並ぶ者にあらず聖父の所造たる者にて神にあらずと稱へ薄信者はこれに惑されければ聖人此異教に對し基督は人にあらず眞神なる事を證する爲め一の書冊を著し其異教を駁撃したりしが異教者は大に怒り聖人の彌撒聖祭を行ふ時聖堂に入り來り聖人を打擲し衣を破り聖堂を汚し又プロテスタンの創立の時の如く殘酷なる事を爲して熱信なる信者を苦め殊に婦人の如きは尙傲慢にして演臺に上り演舌等を爲して己の非をおほはんとせしが聖人はこれに對して柔和と耐忍とを以て眞理を論じ彼等を改悔せしめたり。又羅馬の元老院には軍神の偶像有りしがコンスタンチノ皇帝信者とな

りて此像を皆な取り退けしを元老院の議官は多くは未信者なりしかば大にこれを非とし此頃皇帝佛國に在りければ再び院中に置く事を申請たり聖人これを聞き皇帝にこれを許可ざるより上奏ければ皇帝も其説を是とし神は只一なれば偶像を置く事を羅馬帝國の耻づべき事なりとてこれを入るゝ事を許されず故に其事遂に止みたり。其後皇帝崩じて新帝位に即さしが未だ幼冲して内亂起りければ聖人これを憂ひ各地に奔走して其主謀者に向ひ神と國との二語を以てこれを諭し遂に聖人の盡力に依りて内亂も靜りたり先帝の皇后はアリウスの異説に惑されし者にて格別聖人を厭惡み國家の爲めかく盡力せしに其勞をば賞せずして却て聖人を苦んとて其説教せらるゝ時は無頼漢を遣し妨害を爲さしめ尙種々の工夫を爲して聖人を苦め小人は皇后の意に適んことを望みて大功こそあれ過ち無き聖人を苦しめ遂に聖人の建てたる聖堂をばアリウス異教の會堂となしたり。

或時異教者兵士を聖堂に遣し聖人の出るを待ちて捕へて島に流さんと
 しければ信者はこれを憂ひ聖人をして他出せざる様願ひたりされど聖
 人は少しも懼れず三日の間朝より暮まで説教を爲し人々に諭したりし
 が其主意は眞理は一にして二つあらざれば例ひ如何なる艱苦に出遇と
 も神に托せて神の道に反かざれば幸福なりといふにありし。
 或時佛國人羅馬政府に反逆を企て獨立を計畫り主謀者は自ら佛國皇帝
 と稱せしかば皇帝皇太后も大に憂慮しこれを静めんと其人を得ざれば
 聖人に鎮撫事を依頼せり聖人は皇太后より非常に苦められし事も厭は
 ず國家の爲めに之を承諾て佛國に赴きしが遂に彼等も兵士を率ゐて羅
 馬に攻め入り聖人の盡力も其功なかりしかばテオドジオといへる高名
 き王に其實況を報せ援兵を頼み其王は援助により勝事を得たり此王の
 信者にして行も良く信徳もあれども只性質少く粗暴ければ聖人は屢々
 懼れずしてこれを誠めたり格別或時少しの争ひありて人民兵士一人殺

しければ王大に怒り兵士を遣し其町中の善人悪人を問はず殺したり聖
 人これ聞き驚きしが其次の主日王は大威力を以て聖堂に入らんとせ
 しかば聖人は聖堂の門に出て、王の手には無辜を殺せし血あれば其儘
 聖堂に入る事を許まずと王は大に驚き今日迄我に對して反對する者一
 人もなかりしと聖人尙王に向て爾は信者たる身にありながら愛徳に反
 き外教者の如き行を爲し罪を犯したれば其償を爲し神に救を願はざる
 内は秘蹟を與へずと王は其詞に服し其儘歸りて深く自己の罪を悔み其
 身を責め數月のち謙遜を以て罪科の赦宥を願ひ聖人これを赦したりこ
 れより王は尙聖人を愛敬し我れ罪過あるも他者はこれを誠る者なきも
 聖人は我に諛はず誠を以てこれを責めしは我が爲めに大なる福を與
 へられたりと喜ばれたり王は終りに臨みて其兒女を聖人に委ね教育す
 る事を頼めり。
 聖人の高名全世界に聞え聖人の徳に依り羅馬帝國も滅亡ざりしかば聖

人病に臥したる時貴族學者も多く集り天主に向ひ聖人を今暫時今世に置く事を願へりこれ何が爲めかく祈禱しか若し聖人死する時はローマは必ず滅亡べしと憂てかく祈りしが聖人の死せる後果してローマは滅たり聖人終に臨みて聖體を領け熱寐が如く逝り其時聖人の頂の上に月の如く輝ける光りありたり聖人御年六十四歳にして御降生后三百九十七年翌日聖堂に葬りたり後にローマを亡したる外教人もミラノに來り聖人の墓を神の如く拜せり彼者等はローマに皇帝の在る事を知らず只聖人ある事を知りたればなり聖人の轉達により多くの未信者異教人も改悔し奇蹟數々顯れたりとぞ。

聖トマ 使徒

十二月廿一日

聖トマはガリレヤの人にして漁業を以て生活し親に事へて孝養を盡し正直の名聲高き人なり或時御主に招かれ漁業を止めて使徒となり三年

の間忠直に事へ深く御主を愛し御受難近きし時他の使徒は多く懼れ愛しが一人聖人は少しも懼れず人々に御主と偕に死なんことを勧めければ皆其志に欽服せしとぞされば使徒等は三年の間御主と偕に居り目には常に聖蹟を見耳には常に其教訓を聞けども未だキリストは眞の神なりとは知らずして御死去の時は皆逃れたるこそ淺間しけれ。

御主御復活の時聖人は他處に往きて使徒等は顯れたる時其處に居らざりしかば歸りたる時他の使徒等聖人に云けるは我儕御主を見たりと聖人答て我若し其の手に釘の迹を見我指釘の迹を探り我手其の脇を擡すに非ずば信ぜずと八日の後又使徒等は室の内に集りけるが其時は聖人と偕にあり門を閉たるに御主來て其中に立て爾等安かれと又聖人に向ひ爾の指を此に伸べて我手を見爾の手を伸て我脇にさせ信ぜざる勿れ信ぜよと宣ひければ聖人彼に云けるは我主よ我神よと御主又聖人に宣ひけるは爾我を見しに因りて信ず見ずして信ずる者は福なりとこれ一

人の疑を借て後人の疑を解き一人の探り視たるが爲めに其證據を萬代に傳へしは皆神の聖計に因ることにして聖人疑念の雲も晴れ信仰の光り此時より堅く此主の爲め此教の爲めなれば生命を犠牲として働かんと深く決心し他の使徒と共に萬邦に傳教に出る前イエルサレムの或所に相集りて信經十二條を使徒一人にて一つづつ作りしが聖人は三日目に復活せ給ひと云ふ聖句を作りしとぞ。

夫れより聖人東をさしてアラビヤヘルシヤに往き聖教を傳へしが其頃まで彼の御主聖廟の時來朝せし三人の博士存命にてありければ聖人まづこの人々に御主の三十餘年の言行を詳しく物語り教の旨を説き聞かせければ三人は大に喜び熱心にこれを聞き只管洗禮を求め聖人より洗禮を領け身を終るまで教の爲めに働さけり聖人尙も東洋に教を傳んと印度支那に來り熱信に傳教せしかば夥多の信者も殖へ教會も盛大に起きたり。

聖人印度に在りし時信者の爲めに一の聖堂を創立しければ信者は先を争ひて盡力せしが或人一の大木の棟梁たるべき物を獻せしがこれを運送するに多數人かゝりても是れを動かす事能はず尙大象を加へたれども動かず人々困じ果てしが聖人自ら其所に來り十字の印をなし其巨木に動く事を命じければ其命に應じて木は動き其目的の地に易く至りしかば人々奇異の思をなし聖人の高德に感じたり又其聖堂構内に一の石にて十字架を作り聖人これに彫刻して後日海浪の此石の下に至る時西國より教師來りて重ねて我が傳へし教を語るべしと預言せられしが果して千有餘年の後葡萄牙の教師の印度に來りし時は蒼田變じて海となり十字架の下に海浪は打ち寄せしとぞこれはさておき此の聖堂落成して後ち信者は益々殖へ教會愈々盛大に起さければ惡僧利を失ひて深く聖人を惡み惡人輩を集めこれを害せんとはかりしが聖人の城外靜かなる所に少しの信者と靜修し給ふ時惡黨これを探知て群り集り十重二

十重にこれを圍み石を雨の如くに投じ或は棍棒にてこれを打擲し遂に
 鎗を以て聖人を突き殺けるが聖人自若として樂の色を顯し天を仰て終
 りたり時に御降生后七十五年御年 詳ならず聖人の弟子等この變を聞
 き皆奔趨て其所に至りしも事果てたる後なれば詮術なく泣々聖人の建
 たる所の聖堂に葬り聖人の携し所の杖殺されし鎗と其血とを其墓に同
 じく瘞りたり其弟其等の盡力に依りて教會盛になり后ポルトガルの教
 師來り聖人の恩澤彌々著れ此地名は聖トマと名づけたり年々各地の信
 者來りて聖人を恭敬ひ靈蹟數々顯れたり今日其聖骨はゴアと云へる町
 に在りといふポルトガルの教師今より三百餘年前印度支那へ傳教の爲
 め來りて目撃たる記事を述べて聖トマの傳教せし後の實況を説かん
 教師の支那に來りし時は處々にて古の信者を見たるがトマ聖人より後
 多くの星霜を経て異教も起りし者かこれらの人は只キリストを信じ聖
 トマを敬ひ常に祈禱を爲せり其祈禱の主意は聖トマの恩恵に依り支那

は天國の如くなれりといふにありし又一の大石に信すべき事を彫刻
 せる物を見たりこれ漢の時代に建てたるし有りしと又御降生后二
 百三十九年に信者の建てたる重量三千斤ある鐵の十字架を見たりと又
 支那印度にて聖トマの聖影を見たり土地の人の言傳へに此人は西邦よ
 り眞教を傳へたる人なりと其姿は顔は瘠せて色は黒く衣服は貧しき
 風なり其面貌の瘠たるは禁食を爲したるが爲め容色の黒きは炎暑をも
 厭はず傳教せし爲め衣服の粗服なるは清貧を守りし爲めならん
 或人の説に聖トマは日本迄來れり其信僞は判然せざれども十八世紀に
 獨乙國にカタリナ、エメリクと云へる童貞あり有名なる熱信家にして土
 地の人の談にこの童貞の少罪をも犯したる事なしといはれたる程の者
 なりしが屢々不思議なる事ありて數時の間生氣なく只物言のみなりし
 が其間に物語事は御主の事聖母の事使徒の事など其往昔有りし事ども
 語りければ人奇異の念を爲しこれを聞きしが或學者の筆記せし中に聖

トマの日本に傳教せし事を載せたり聖トマは日本に渡り或有名なる町に傳教して數多の信者も殖へ其日本を去る前大石に信經を彫刻せしめしが其石は今地震の爲め地中に埋没せしが後日再び現出て其時聖教盛に日本に行はれ國王並に貴顯の内に信者となる者あらんとこれ未來の事にして果して彼の童貞の語りしは眞實なる事なるかされどこの事は文明なる國に於て學者の實に見聞せし記事なれば茲に附記する事とはなしぬ。

聖ヨハチ 使徒福音史 十二月廿七日

聖ヨハチは如徳亞國の人にして賤しき者にあらざるも家貧しくして同兄長ヤコボと共に漁業を以て日々生活をなし居りしが或時濱邊にて網を修繕ひ居たる時御主偶々其處を通り召れて其弟子となりたりこれ等の事はヤコボの傳に詳しく記したれば茲には省畧きて記さず。

聖人の使徒に召されし時は二十五歳にして十二人の内にては最も若く妻もなく童貞を守りければ殊に御主の寵愛を蒙りたり故にヨハチを指して他の使徒等は常に主の愛する者といひて別に其名を呼ばざりしは聖書に屢々看るところなり聖人も深く御主を愛し其聖訓は皆耳を傾けて深く之を聞き其顯るゝ所の靈蹟を深く心に賞して之を觀て常に怠りなかりしかば御主は聖人の後日聖教の爲めに大功を立て、俗を破り人を驚かす事を豫表して雷の子と呼ばれたり。

御主カルワリヨ山にて十字架にかゝり告人の爲に寶血を流し給ふ時使徒等は如何なりしか一人も其所に居らざりしも獨り聖人は聖母マリアと偕に始終其側に在りて御主に事へ聖き教訓を受けたりマリア御主に別れて後は他に身を寄すべきの子は元より親類さへも無き身なれば御主は聖人の忠愛を賞し給ひて最愛の母マリアを聖人に托し其母となし給ひければ聖人深く喜びて我生母にもまして孝養を盡しけり。

御主墓に發葬れて後聖人深く御主を追慕し三日目の朝未だ味うちより
 起き出でしに御主復活の音信を聞くや直ちにペトロと偕に奔りて其墓
 に至り見れば只屍をつゝみし布のみを見て他の使徒等の御復活のこと
 を知らせ是より聖人の信仰愈々堅くなりしとぞ。
 御主御上天の後第一に聖ペトロと偕に一の奇蹟を行ひたり或日祈禱の
 時に當てペトロと共に殿に上し時一人の生來なる跛あり殿にいる人に
 施濟を求めんに日毎に負れて殿の門に居りしが彼れペトロとヨハネを
 見て施濟を求めければ二聖彼に向ひキリストの名によりて起て行めと
 命じければ一言の下に彼れは踊りあゆみて神を讚美たりと。
 聖人先きに其兄ヤコボと偕にキリストの左右に大臣たらん事を望みし
 が今はこれを思ふ毎に耻かしく愈々謙遜に又其兄と共に傳教して聽く
 者無かりし時天火を以てこれを燒き殺すべしと怒りし事を思ふては益
 益柔和に愛情深き者とはなり毎々人々に逢ふ時は相互に愛せよと云ひ

けるとぞ。
 聖人は聖母と共に在りて傳教怠りなく聖母とこれを助けたりければ聖
 教の名聲高くこれに奇依する者多ければ古教の祭司等これを妬み御主
 の名を呼ぶことを禁ずれども聖人從はず爲めに囚獄に捕はれて答たれ
 けれども聖人却て辱を受くる事を幸となし少しも懼れず屈せざれば
 彼等も陰術なかりしとぞ。
 夫れより後使徒等萬邦に傳教に出でし時聖人は小亞細亞なるキプソ
 と云へる町に往き熱心に傳教せしかば多くの信者も殖へ教會盛に赴き
 此國のみにて七人の司教を立て聖人常に各地を巡回して司教と信者を
 益々善徳に勧めたり茲に惡黨共は教會の盛大に趣くを妬み誣て官に訴
 へたり此國今は土耳其の領地なれども當時は羅馬の領内にして羅馬政
 府は基督教禁制の嚴令を出し信者を囚へて本國に護送し苛酷く取扱し
 が遂に聖人も囚れて遙けき船路を罪なくして奴隸の如く扱かはれ羅馬

に至れば國王は自ら其罪を審訊れど元より罪あるものに有らざれば眞の道を説明し邪道を深く責めけれど王は左道に踏み迷へる者にて聖人の教を開かぬのみか性質凶悪なる者なれば聖人を惡み基督教を厭ひてこれを捨つることを命ずれども聖人聞かざれば大に怒りて大釜に油を沸煮し聖人を赤身となし其釜中に投げ入れ肉たゞれて骨のみ残らんと思しに不思議や聖人は釜中にありて少しの傷害をも受けず三回釜中に入れられしが常に少しも變らず其釜の側に立ち居たる刑吏は熱き釜の爲めに燒かれければこれを見し人々は大に驚きこれ凡人ならず神ならんと云ふ者あれば又これ邪法を修する者ならんと遂にバトモスと云へる島に流されたり此島は亞細亞とギリシヤの間に在る小島にして島人は其性質暴戾なる者なりしが聖人これ等の人々に眞の道を教へ惡人を改めて良民となし又自らは高山に登り禁食して熱心に神を愛し祈禱を捧げれば神聖人の神眼を開き天國を示めし又將來來るべき世變格

別教會の事に付きて黙示を蒙りこれを書冊に書し亞細亞に在る七人の司教に送りこれ新約聖書中黙示録なり。
羅馬帝崩じて其新帝は信者を苦しめず其囚へし者は皆本國へ歸しければ聖人も島人を慰め離別を告げてエフエソに歸りけり信者は大に喜びてこれを迎へ亞細亞の教會益々盛大に起けり時に御降生后九十四年なりし其頃異説を稱ふる者ありて基督は神にあらす預言者の一人なり又惣ての教規を廢して人意に適し信じ易く守り易き物となし愚民を煽動して私慾を恣にせんとなしたれば聖人福音書を著し天主の降生と救世の深旨とを述べ御主の行ひ給し奇蹟を引證し彼は眞の神にして無始の始めより聖父と偕に在りし者にて天地萬物を作りこれを主宰し又人骸を受けて救世せられたる者なれば其教に入らざれば決して救霊を得ること能はずと異教者をして基督の眞神なる事又眞の教なる事を知らしむることを目的とせられたり福音書は皆神の黙示によりて書したる

物なれば何れも聖き物なれども尙聖人の著したる福音書は尙貴き物としてキリストを眞神と感念する爲め今も御彌撒の終りに此福音を誦ぶるを例とせりこれ聖人の著したる福音には聖軀の事を詳しく述べ聖體の肉眼を以て見る時はパンと葡萄酒なれども實はキリストの聖肉聖血生ける神の尊體なることを記したればなり。

聖人福音書の外に書簡三つあり一は或る異端者がキリストが天主にあらざるを主唱へ又救靈の爲めに善を行ふは甚だ必用ならずと妄なる事言ひければ其非を辨明さん爲め著し其二は熱信なる婦人エレクタといへる者に送て其厚意を謝し次に異教に欺惑されざる様諭せしもの其三はカヨといへる信者に對し傳教者を助けし善功を賞美め其謝意を述べし者なり此三の書簡は愛徳を説きたるものにして信者は相互に愛し異教者に欺惑されざる様に諭せし者なり聖人人の靈魂に無量の價値ある事を稱へ一人も多くこれを救んと勉められたり

茲に一の談あり或る信者に十五歳なる者ありて性質善良にして熱信なる者なりしかば聖人深く之を愛し常に側近く置きしが先きに囚れて羅馬に送らるゝ時此者を或司教に托し其教育を頼みしが此者遂に惡友に誘はれ漸々惡道に踏み迷の途には盜賊の群に入りたり聖人の亞細亞に歸られし時は是事を聞て涙を流し深く憐みてこれを救はんとして其棲家とせる山中に尋ね入り彼れに向て涙を以て柔和に後悔を勧めければ彼者も己れを愛するが爲九十有餘の老人の山路も厭はず遙々と尋ね來らし信切に感涙を流して其罪を後悔し聖人と共に歸り禁酒祈禱を爲して謝罪し元の如く熱信なる者となりしとぞ聖人の他人を愛する事かくの如く信者に遇ふ時は常に我が子よと云ひ又相互に愛せよと云れたれば信者はこれを異み何が爲め聖人は何時も同言を言るゝかと聖人答て愛徳は基督教の礎にして人愛徳あれば決して罪を犯さずと云れたり此頃は聖母も先きに上天せられ聖人も此世に望なく早く天主に見へんと年

九十五にして天主に召れて其臺前に上られたり永眠の土地はエフエツ
にして時は十二月廿七日なりき。

聖人の聖影には手に筆と紙とを持てりこれ福音書を記したるを表し又
其側に鴛鴦を畫けるは鴛鴦は太陽に向ても其光りを恐れず其眼を閉ぢざる
ものなれば聖人のみ人の此の世に有りて見ること能はざる神の榮光を
見たる意を示す又爵より蛇の出でたるを持てるは聖躰を示す太古より
蛇を生命の事に代表し蛇は長く死せざるものとせり故に爵より出る聖
躰を領する者は終りなき生命を得る事を表す。

聖シルエステロ 教皇 十二月三十一日

本書中には使徒を始め上は皇帝國王より下は僕婢に至るまで貴賤貧
富に關らず凡べて信者の模範となるべき聖人の傳を集めしが只法皇の
傳を記さざるを人は何とか怪しまん聖ペトロの創初より今代の教皇に

至るまで凡て二百六十三代の間一人の聖人も無かりしものかとされど
本書に教皇の傳を記さざりしは外に理由のある事にて歴代の教皇は聖
人ならざるもの一人もなしといふも敢て過賞にあらざれど本書に記さ
ざるは別に教會歴史を編輯すれば其中には歴代の教皇の傳を詳しく記
せばこれを省略して記さず讀む人其心して讀みぬかし只此の聖人の傳
を記して本書の大尾となす教會の當初三百年の久しき間窳逐盛に行は
れ皆な信者は艱難の中に奉教せしがこの教皇の祈禱と其施政の良さと
に因り遂に信教の自由を得るに至りたれば特に記すことゝはなしたり。
聖人は三世紀の終りに羅馬に生れ性質純良にして或靈父に従ひて正道
を學び熱心に勉めければ遂に羅馬に列ぶ者なき道徳者となりたり。
當時羅馬には窳逐盛に行はれ教の爲に致命せし者萬を以て數ふる程な
りしが致命者の血は信者の種子となり窳逐れば責るほど信者は殖へ教
會は愈々盛大に趣きたりこれ基督教は世の光りなれば暗きに居るもの

は常にこれを厭惡ふなれど暗黒は光りを滅すこと能はず地獄の門は之れに勝つこと能はずとは御主の聖言いとも尊きことぞかし。
 かくの如き現況なれば信者は其子弟を教會學校に入學させ靈父の薫陶を受けたり聖人もこの學校にありて幼より熱心に勉強し靈父の良き模範に因りて成長するに従ひ道德日に高く格別諸州より羅馬に來り聖地を順拜する者の爲めに宿をかし懇ろに待遇しベトロポロの墓に案内し又病める者ある時は信切に看病し若し醫のため致命する者ある時は人知れずこれを葬り跡と懇ろにとむらひける。
 羅馬の刑吏はかく信者を周旋する者は何人ならん惡き者なれば目に物見せんと屬吏を處々に遣し密々探索せしが度重れば顯るゝ阿漕が浦のそれならて聖人の陰徳も終に暴吏の爲めに顯され或時一人の致命者を葬る時捕れて罪なくして細目の耻を受け囚獄の月を見る身となり近き日に聖人も刑場の露と消ゆる者となりしはおしみても尙餘りあり茲に

聖人の爲め思はぬ僥倖の事こそ出て來り或日刑吏は魚の骨の爲めに喉を刺し死せしが后任者は少しく情ある者にて聖人を始め夥多の信者の囚獄に在る者を釋放して其家に歸しければ聖人も今は自由の身となりたり。
 聖人年三十歳にして靈父の位に昇りしが幾程もなく時の教皇崩御せしかば人々は聖人の高德に感じこの人々に推撰せられて聖伯多祿の座につき三十三代目の教皇となられたり。
 聖人即位の當時は教會大艱難の時にして羅馬より程遠き僻地に避けてをはしたり。

教會は當初三百年の間は苦責を受けたりしが後教會の章號十字架は羅馬の軍旗となりて大いに羅馬の天下を守護するに至りけり。
 羅馬皇帝コンスタンチノがマクセンシヨと云へる者と取争せし所以はマクセンシヨが徳義の境を超へし羅馬の大權を握取らんとする野心よ

り出てたるなり是の如く私念情慾の軍勢は頗ぶる猛烈して當るべくも
 あらざれば帝は頻りに神に祈禱て其力に頼りて降服せしめんとせられ
 たり帝は未信者なれども神を敬以國を愛する忠情は眞神に達しけん祈
 禱の間に眞の奇瑞こそ現れたり若し皇帝の自ら人に語せられざれば信
 ずべからざるに帝は其親友なる者に其事の眞實なるを誓ひて物語れし
 は後日の實跡に徴するも果して帝の物語れる神瑞の不可思議は少しも違
 はずして世人の疑ひを晴らせり其奇瑞と云ふは帝の午后四時頃祈禱せ
 る時帝斜めに西の方を臨めば日は西の空天に傾き其太陽の上へ少しく
 隔て一の十字架歴々と顯れければ是は不思議と思を込めて尙能く見
 るに十字架の回りにこの印を以てせば汝の軍は勝利を得べしとあるを
 讀み終るや忽ち消へて跡なし帝大に心に感じ喜悅に耐へざるも尙爲す
 べきことを知らず思案に其日は暮れて一夜を明す中御主は帝に現れて
 「我が手に持てる此十字架の如き軍旗を立て戦場の守護と爲せよ」と帝歎

喜に堪へず曉に至るを待ちて右の軍旗を作らしめ其日の戦争には此旗
 を帝の馬前に立て、戦しかば不思議や其日の一戦に勝利を得てマクセ
 ンシヨを亡ぼしければ皇帝神の聖佑を深く感謝し國中に勅して宗教
 の自由を許しこれより信者を窘逐する事を禁じければ信者は大に喜び
 神の聖助を感謝して尙熱心に信仰し聖人も公に傳教するの自由を得て、
 熱心に教會を收められしが明月を妬める村雲の如し帝王の其領地を巡
 狩せられて羅馬にあらざるをうかゞひ邪教を奉ぜる者群集りて信者を
 苦しめ或は島に流し尙聖人を捕へて殺さんと圖りしかば聖人は都を距
 れたる所に移り給へり。
 この時皇帝は惣身に癩病を發し種々に醫療を盡せども病は愈々重くな
 り膿血の爲めに惡臭をなし人々これを厭ふて近く者もなかりければ羅
 馬に歸りしが一人の醫士ありて皇帝に勧めけるは幼き兒の生血を絞り
 これを以て全身にぬらばこの病癒ゆべし他に眞法なしと云ひければども

皇帝は柔和にして仁愛深き君なればこれを用ゐずして我たとひ此惡疾の爲めに一命を失ふとも人を害せずとされど終夜病苦の爲めに眠る能はず微眠りし夢の間に聖ペトロ聖パウロ顯れ慰めて云けるは天主爾の人を愛することを嘉し我を爾に遣されたり其地にある某人は聖教の教皇なればこれに人を遣し良法を求むべし彼れ來りて爾の靈魂と身軀の癩を癒すべしと皇帝此の奇夢に感じ人を遣し聖人の許に至り宮殿に招き懇切に待遇し前夜の夢物語を爲し偕て神の遣し給し老人は何人ならんと聖人に尋問ければ聖人はペトロパウロの二聖人ならんと教會より二聖の聖影を持ち來りて皇帝に示しければ果して聖人の想像の如くなりしと聖人は皇帝に向て我の善法とは只天主を信ずるのみ別に善法なしと皇帝も深く眞神の恩恵の一回ならず二回まで我が身の上を下し給ひしを感じければ聖人は教の眞理を詳しく説明し皇帝篤く信じて少しの疑もなく教規に遵ひ洗禮を授かりければ今迄は見るさへ恐しき惡

疫も拭ふが如く潔くなりければ皇帝の感喜は比ふるに物なし再生の思をなし神の恩恵を心に銘し修身熱心に神に事へ教皇を恭ひければ教會は益々盛大となり羅馬の都は眞の文明の華を開くに至りたり。皇帝は各地に聖堂を建立し人民をして眞の道に勸めければ今まで基督教を輕蔑せし學者華族の輩も漸々教理を研究し始めてキリストの神なる事人類の爲めに眞道を教へんとて此世に降生せられし事も會得し殊に聖人は屢々奇跡を顯し給しかば暫時の間に夥多の信者も殖へ羅馬の教會益々盛大となりしは聖人の爲め信者の爲め大に喜ぶべき事なりしが先きに數々説きたる如く種々なる異説を稱ふる者顯れればシルエステロ教皇は各國の司教を招集め惣會議を開かんと小亞細亞のニセアの町に惣教議會を開きたり(當時信者ハ亞細亞ニ多キナリ)此惣教議會に於て信ずべき箇條行ふべき箇條を規定するため其後も數回開かれたりニセアの會議に教皇は自ら其議會に臨まざりしも二人の

代理を派遣され皇帝は自ら臨席せられて謙遜に黙聴せられたりこの時
 有名なるアリウスの異説は異教と定められ又使徒の作りし信經は簡に
 して異教の起る事あるがためにこれを説明なせし一の信經を作れりこ
 れニセヤ信經これなり而れども新に箇條を造りし者にあらず使徒の作
 りし信經は決して増すも減すも能はざる事なれば只其意を説き明かに
 知らしめしのみなり其時この會議に集りし司教は三百十八人にして其
 議決せし事を教皇に送り其裁可を願ひたり教皇はこれを裁可しニセヤ
 の規定に反對するものは異教と定め教會を放逐せり今時異教離教の輩
 は常に羅馬教皇に全教會を主宰する權なしといへどもこれ大なる誤り
 にて古より如斯教皇のペトロの代理として教會の主宰なる事を信ぜざ
 る者は一人も無かりき。

此時まで教會は窘逐の中において使徒の命ぜし百船の儀式と公に行ふ
 事難かりし故に教皇これを定めたり其一二を述べばキリスマと名くる

聖油(洗濯ノ時受洗者ノ額ニ十字架ヲ印シ又)を作ること其以前は靈父は誰も作
 りしか此時より司教のみ作る事と定め聖體を造る時香臺に敷く布の如
 き先きには絹木布麻等其物質に定規なかりしが此時より今日までも使
 徒の用ゐられたる時の如し必ず麻布と定めたりこれ御主の御尊骸を包
 みたるも麻にして麻は他の布に比していと清き物なればなり其他規定
 められたる事多けれども省略て記さず。

聖人は教會の自由になりしはひとへに神の恩恵と益々愛徳深く教の内
 外に別なく人々を愛し殊更貧者を憐み救ければ人民も其徳に懐き教
 皇は實に我等の父なりと尊敬し皇帝は羅馬の町は數萬の信者宗教の爲
 めに血を流したる土地なればと教皇に奉獻し都をキリシヤなる或町に
 建てコンスタンチンポリと名けたり(ノッナリ)聖人二十年の間全教會を
 主宰し三百三十五年永眠せられ今尙羅馬の聖殿に其聖骨は黄金の寶函
 に納めありて信者の恭敬するところなり。

聖人傳 大尾

六百五十一

明治三十六年二月廿五日印刷
明治三十六年二月廿八日發行

著者

東京市麻布區霞町二十一番地

斯定 簽

發行者

東京市麻布區霞町二十一番地

武市 誠太郎

印刷者

東京市京橋區四橋屋町二十六七番地

佐久間 衡治

印刷所

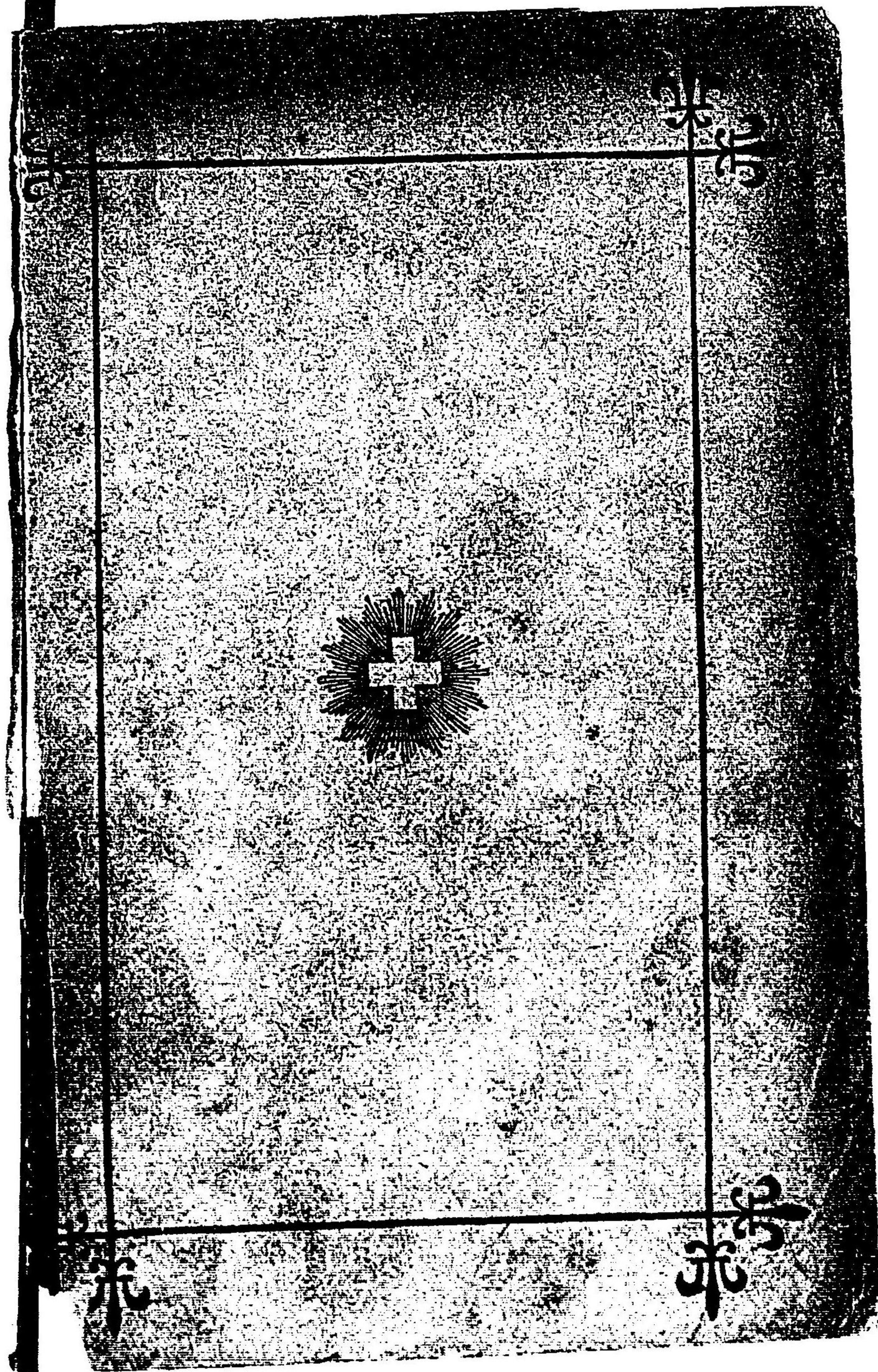
東京市京橋區四橋屋町二十六七番地

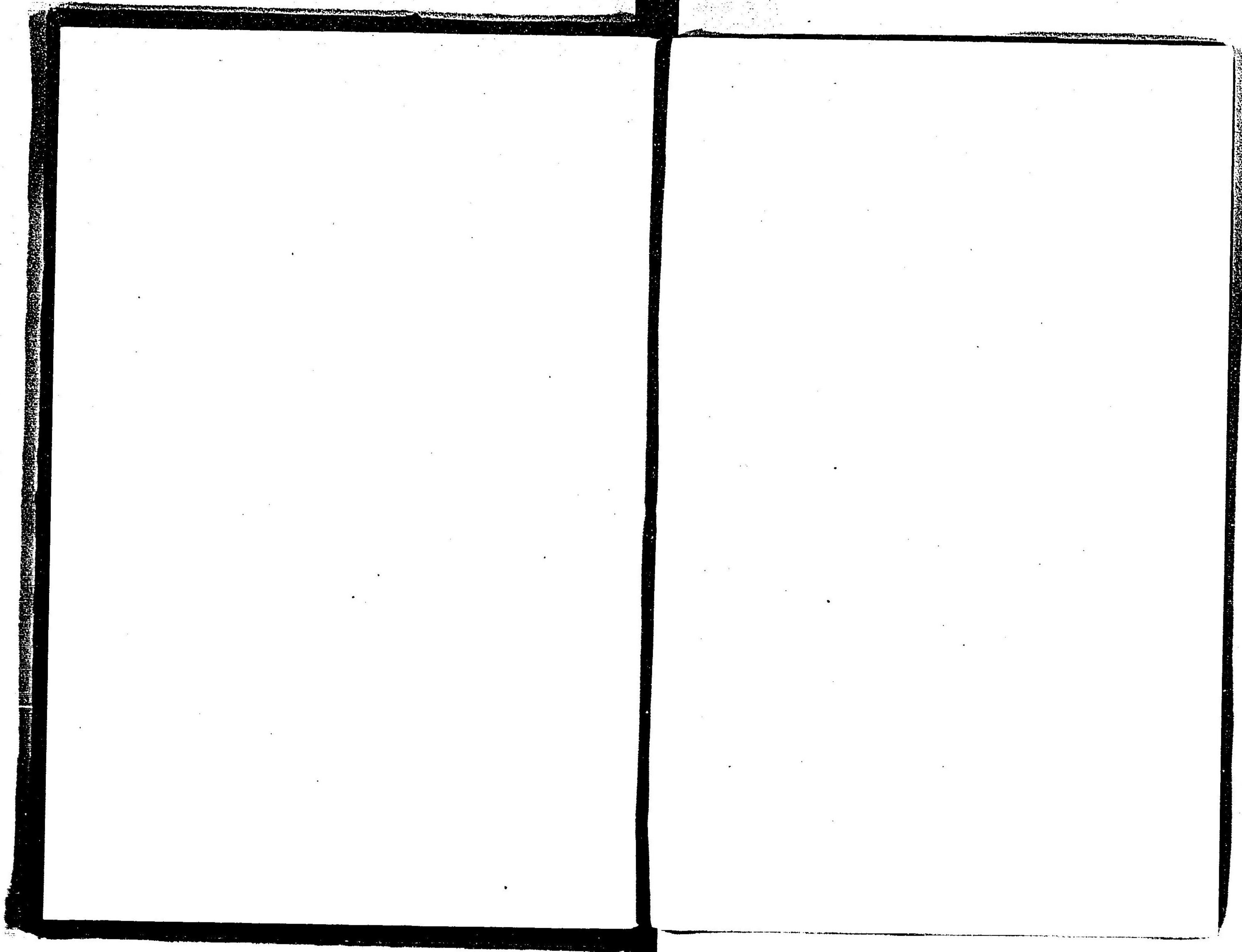
株式會社 秀英會

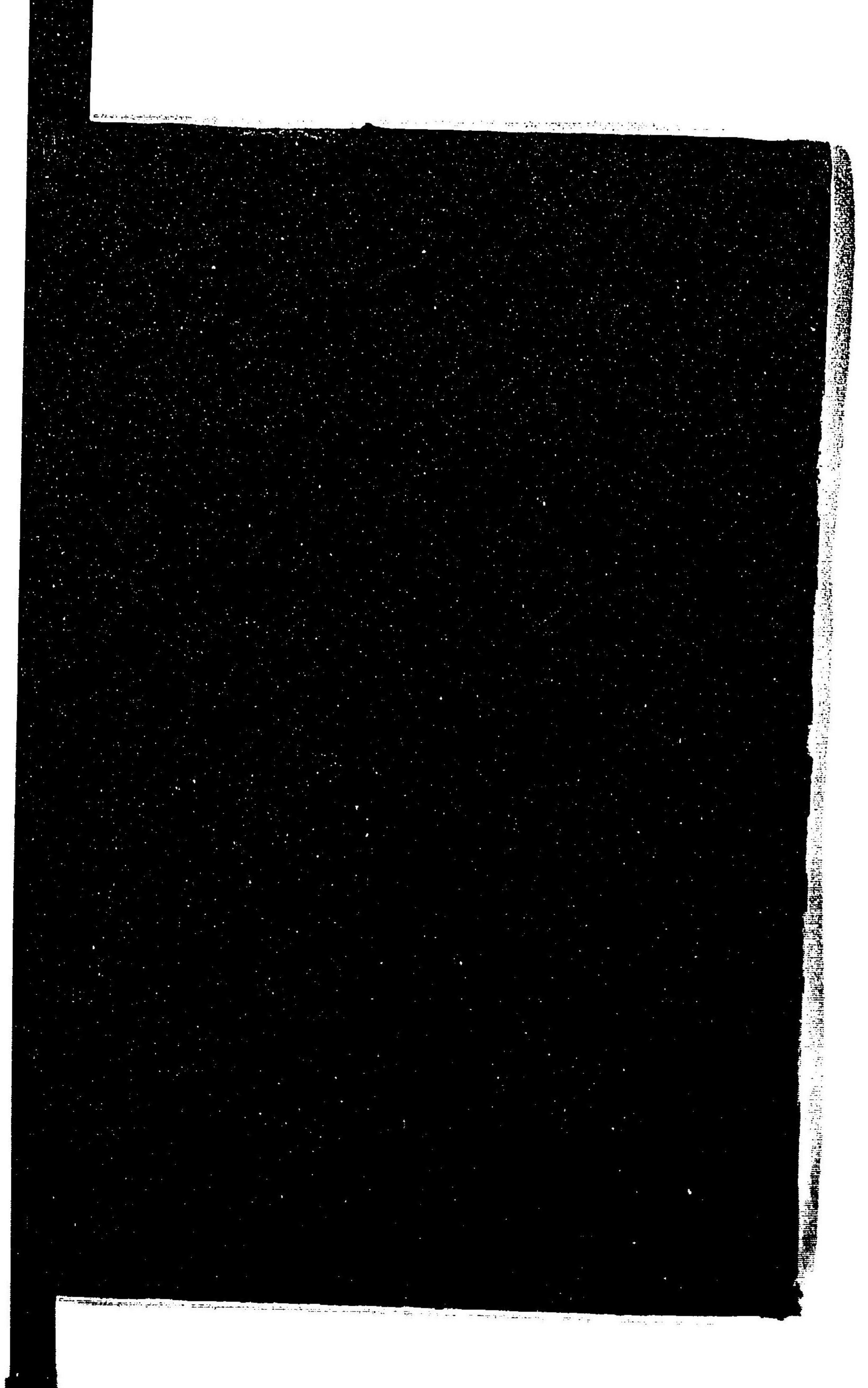


此書係由... 刊印... 凡欲購者... 請向... 函購... 每部... 銀... 元... 郵費... 在內... 總發行所... 上海... 某某路... 某某號... 某某公司... 某某部... 某某室... 某某人... 某某啟

318
38







318
78

020920-000-5

318-78

聖人伝

斯 定筌 / 著

M36

ABI-0768



